

## 第Ⅱ章 平成21年度 企画事業の実際

### 先導的・モデル的な体験活動に関する事業

# 「未来に残そう！九州地区高校生エコサミット in 阿蘇」

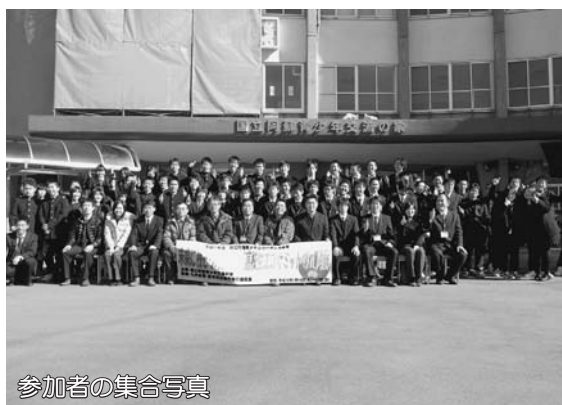
[主催] 国立阿蘇青少年交流の家

[後援] 九州各県・政令指定都市教育委員会，NPO法人九州流域連携会議，土居自然学校

[期間] 平成22年1月16日（土）～1月17日（日）1泊2日

[参加状況] 高校生71名

内訳：柏陵高校（福岡）4名  
唐津青翔高校（佐賀）7名  
市来農芸高校（鹿児島）3名  
宮崎大宮高校（宮崎）5名  
玖珠農業高校（大分）2名  
鹿本農業高校（熊本）7名  
水俣工業高校（熊本）8名  
阿蘇清峰高校（熊本）17名  
水俣高校（熊本）5名  
阿蘇高校（熊本）1名  
引率教員10校12名



参加者の集合写真

### [講師]

熊本県立大学  
NPO法人全国水環境交流会  
九州環境教育ミーティング

教授 篠原 亮太 氏  
理事 岡 裕二 氏  
実行委員 土居 元 氏

## 1 趣 旨

近年，環境問題に関して関心が深まっており，様々な取り組みが行われている。各地の環境活動でも連携が図られているが，活動を未来につなげるには若者の参加が不可欠である。特に社会に出る一歩手前で，実動を期待できる高校生は貴重な存在である。これらの高校生が九州各県から一同に集まり，自分たちの取り組みを実践発表や情報交換することにより，環境問題への関心を深め，お互いの活動のよさを認め合い，環境保全活動への意欲を高めるとともに，環境教育の振興と各高等学校との連携を図るために本事業を実施した。



実践発表会の写真

## 2 目 標

- (1) 高校生が実践発表をとおして，お互いに学びあう出会いの場になるようにし，環境教育に関心を持たせる。
- (2) 九州地区の高校生による環境教育に関するネットワークを構築するきっかけをつくる。

### 3 事業の実際

#### (1) 研修プログラム

日	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
1月16日(土)									受付	開講式・オリエンテーション	実践発表	入浴 休憩 夕食			グループ別意見交換会	就寝準備	就寝
日	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
1月17日(日)	起床・洗顔・更衣	清掃・退所準備	朝食	退所点検・荷物移動	講演	閉講式・アンケート記入	昼食・解散										

#### (2) 目標達成のための工夫点

- ① 九州地区で環境教育や環境保全活動に取り組んでいる高校生が集い、それぞれの取り組みなどの実践発表を行うことで環境についての理解を深めた。

(各高等学校の活動報告)

県名	福岡県	学校名	福岡県立柏陵高等学校
タイトル	環境科学コース紹介		
【活動の内容】	<p>環境科学コースでは専門科目として4科目を履修し、「生物探究」「化学探究」の授業では教室での学習に加え、学校近くの自然林や溪流でのフィールドワーク、また、「環境論」「環境と生態」の授業では環境に関する新書を読破し、それを紹介、解説する活動を展開し、卒業時には各自のテーマに沿った論文を仕上げることにしています。</p>		

県名	佐賀県	学校名	佐賀県立唐津青翔高等学校
タイトル	環境コースの授業と環境改善プロジェクト		
【活動の内容】	<p>佐賀県唯一の環境コースで、校外での観察や調査など野外実習も多く楽しい授業が多いです。また、授業以外では今年度第10回目を迎えた「全国高校生自然環境サミット」へ毎回参加しているほか、昨年度は「第1回九州高校生環境学習in佐賀」を開催しました。</p>		

県名	大分県	学校名	大分県立玖珠農業高等学校
タイトル	地域と手をつなぎ、世界の湿原にあの風景をもう一度		
【活動の内容】	<p>大分県九重町役場及び九重町の自然を守る会などと、ミヤマキリシマの維持管理と植生調査、稀少種繁殖活動をとおり、坊がつる・タデ原湿原、飯田高原一帯の稀少植物の調査・復元に取り組んでいます。</p>		

県名	熊本県	学校名	熊本県立鹿本農業高等学校
タイトル	環境と、農業を見つめ、導く、地域の環境センターを目指して！！ ～地域廃棄物を利用した、持続可能な社会システム作りを目指して～		
<p>【活動の内容】</p> <p>私たちの研究活動は地域にある浄水センターから出る廃棄物汚泥の再利用に焦点を当て、汚水の浄化をする上で必ず出てしまう廃棄物汚泥、それを肥料として利用されていることを知り、環境に優しく尚かつ、廃棄物の再利用されていることに興味を持ち、研究のテーマに設定することにしました。</p>			

県名	熊本県	学校名	熊本県立水俣高等学校
タイトル	エコスクール水高		
<p>【活動の内容】</p> <p>平成20年9月より、水俣市が認定を行う学校版環境ISOに取り組んでいる。生徒会役員、環境委員会を中心に、「環境にいい学校・人づくり宣言項目」を決定し、その宣言項目を日々の生活の中で実行するという内容である。本年度より、エコスクールプログラムに申し込み、グリーンフラッグ取得を目指す取り組みを開始した。</p>			

県名	熊本県	学校名	熊本県立水俣工業高等学校
タイトル	学校ISO認定に向けての取り組み		
<p>【活動の内容】</p> <p>現在、水俣工業高校では学校版環境ISOの認定を受けると共に、ゴミの分別や紙パックのリサイクルをはじめ、水俣工業高校オリジナルマイバッグを全生徒・全職員が持ち、レジ袋の削減に努めています。また、技術ボランティアやエコ電カー以外にも風力発電や水力発電など環境にやさしいエネルギーの研究も行っています。専門高校ならではの「ものづくりを通した環境教育」を地域等に発信していきたいと思えます。</p>			

県名	熊本県	学校名	熊本県立阿蘇清峰高等学校
タイトル	阿蘇の自然は私たちが守るバイ！		
<p>【活動の内容】</p> <p>阿蘇の草原は、平安の世から1000年以上続くともいわれる「野焼き」が行われている。私たちがこの行事にかかわるようになって長い年月が経ち、学校林周辺には地域の牧野が広がる。野焼きの延焼から周囲の山林を守る防火帯作りは本来畜産農家の義務だが、50年ほど前、その作業を自ら参加して以来、今日まで学校の伝統行事となっている。野焼きの最大の目的は、畜産用牧草地の維持にある。森林化を食い止め、牧草となる新芽の芽吹きを促し、ダニも駆除できる。実習を通し、生徒たちも初めて野焼きの意味について理解できたことも大きい。</p>			

県名	宮崎県	学校名	宮崎県立宮崎大宮高等学校
タイトル	生徒環境委員会(整美・花促進)活動を通しての環境美化活動の実践報告		
<p>【活動の内容】</p> <p>「花促進委員会」「整美委員会」両委員会の活動は、ともに自主的かつ組織的で、学校全体に環境美化や保全の意識が育ってきている。両委員会の活動をとおして、それぞれが自分のまわりの環境美化や保全を認識することができ、また美しい環境が良い人間関係を構築できると思えます。それぞれの学校の取り組みに学び、それを本校の環境教育に役立てていきたいと考えています。</p>			

県名	鹿児島県	学校名	鹿児島県立市来農芸高等学校
タイトル	人と環境に優しい養豚経営を目指してⅢ ～養豚場から始めよう！緑のカーテンエコプロジェクト～		
【活動の内容】			
市来農芸高校では科目「課題研究」において養豚専攻の生徒が「人と環境に優しい養豚経営を目指して」をテーマに木酢液の散布による消臭効果，オガクズ（発酵床）運動場での飼育による肉質への影響，豚糞堆肥の活用等様々な研究を行っています。今年度はさらに，豚舎周辺に緑のカーテンを設置し，その効果に関する研究について取り組んできました。			

② 環境教育の専門家の指導によるグループ別意見交換会で、「環境活動を持続させ，その輪を広げる上で大切なことは何だろう」という投げかけに，地球温暖化対策の実現を指摘する班や人，地域自然のつながり活動を生み，広げていくと説いた班など参加生徒たちは意欲的に参加する姿が見られた。また参加生徒同士で名刺を作成し，交換をするなど交流の場面も見られた。



③ 2日目には熊本県立大学の篠原教授による講演会が行われ，「科学に基づいた環境教育のすすめ」として私たちが生活する中で身近な食品に関する環境についてや，古紙のリサイクルに関する健康リスク，残った食品の処理の仕方「台所の流しは海の入り口」などの話があった。終わりに「環境問題は変化すること」を訴えられ，理由はわからないがとにかく「おかしい」と思ったら「調査」し，様々な事例に当てはめて確認する。あるいは自分でやってみる。ことを話されて講演が終了した。

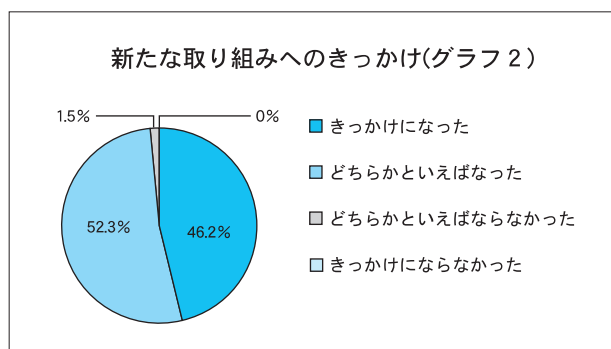
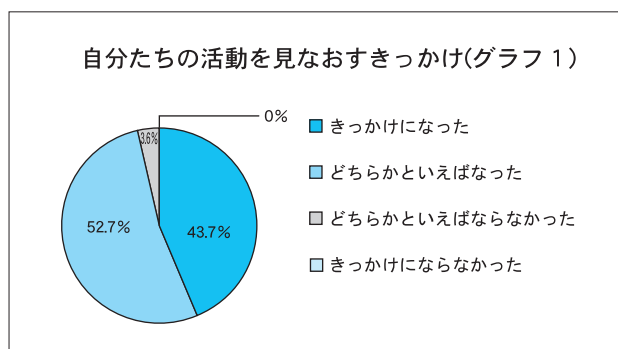


## 4 結果

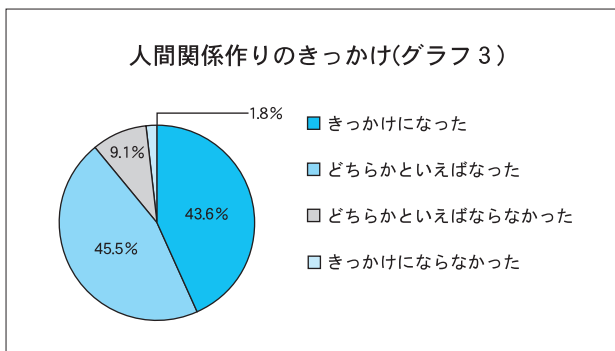
アンケートの結果は次のとおりである。

(高校生参加者による自己評価)

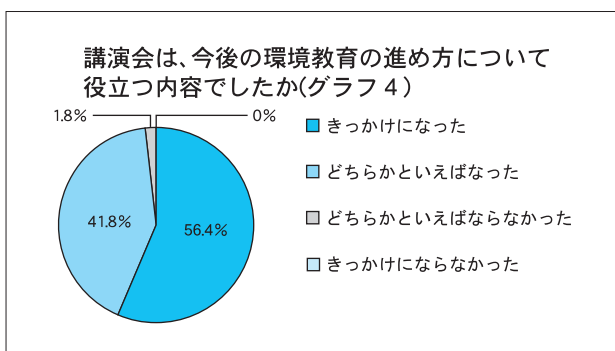
(1) 各学校の実践発表や意見交換は，自分たちの活動を見つめなおし，新たな取り組みへのきっかけや人間関係作りになりましたか。





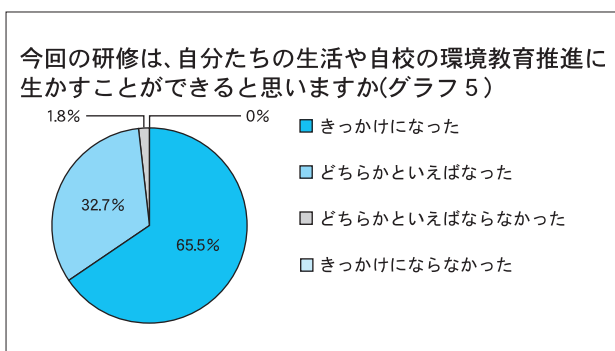


(2) 講演会は、今後の環境教育の進め方について役に立つ内容でしたか。



- 小さなことでも積み重ねていけば大きなことができるということがわかった。
- 間違っただけを取り組まないためにも、ちゃんと考えて行動していきたい。
- これからどんなふうに住んでいけばよいか、考えさせられた。

(3) 今回の研修は、自分たちの生活や自校の環境教育推進に生かすことができますか。



- エコに対して意識を高め、まずは自分から取り組みたい。
- 地域のリーダーになって、いろんな人と交流したい。
- すぐにできることからやっていきたい。

## 5 成果と課題

(1) 成果

- ① 九州各県から参加した高等学校の取り組みを、実践発表形式でそれぞれ発表することで自分たちの活動を振り返るきっかけができたと思う。(グラフ1)
- ② 意見交換会の中では様々な意見が出され、新たな取り組みについて考えることができた生徒が多く見られた。(グラフ2)
- ③ 実践発表の中で質問があれば質問用紙に記入し、後で応答してもらうようにすることで、参加者の疑問点を解決することができた。
- ④ 休憩時間にそれぞれ自分の名刺を作成し、意見交換会の前に班の人たちとの名刺交換を行うことで、グループ別意見交換会がスムーズに進み、人間関係作りのきっかけになった。(グラフ3)

- ⑤ 講演会では、熊本県立大学の篠原教授に「科学に基づいた環境教育のすすめ」という演題で、遺伝子組み換え作物の問題や身近な食品に関する問題などについて幅広く話をしていた。参加者からは「小さなことでも積み重ねていけば大きなことができることがわかった」「これからどんなふうに住んでいけばよいか考えさせられた」など、講演により様々なヒントを受けた参加者が多く見受けられた。(グラフ4)
- ⑥ 事業全体をとおしては「他校の人たちがどのような活動をしているのかが分かってよかった」「話し合いでは交流が深まってよかった」などの意見が聞かれ、環境について意欲的に取り組む高校生の参加が多かったことが推考される。また、引率された高校の先生から「発表、グループ活動をとおし、さらに環境について考えるよい機会になった」「本校の活動を発表できるよい機会でした」などの声があった。生徒たちの活動を発表できる機会の提供と、交流の場の設定、専門家による講演会により、この事業が参加者の実態に適合したプログラムになったのではないかと考えられる。

## (2) 課題

- ① 開催時期を1月に行ったことで、阿蘇の自然を生かしたフィールドワークをプログラムに入れることができなかった。また、環境への取り組みをしている高等学校で、取り組みの時期と今回の事業が重なり参加できない高校があった。
- ② 事業費の関係により、他県からの参加校が1県につき1校となったため、他県で様々な取り組みをしており、「九州地区エコサミットin阿蘇」に参加を希望する高校がすべて参加することができなかった。
- ③ 1泊2日の日程で講演会を2日目に企画したが、前日の疲れが見える生徒も多く引率の先生からは「講演会は1日目に計画してほしかった」などの意見もあった。

## 6 まとめ

本事業では、実践発表、意見交換会、講演会をとおして、他校の活動を理解し交流を深めるなど普段経験することができない体験をすることにより、ますます環境に関する興味関心は深まったと思われる。事業終了後には「来年もぜひ参加したい」などの声が聞かれた。しかし一方では「阿蘇のフィールドを生かした環境プログラムを組んでほしい」などの意見もあったことから、阿蘇の自然を生かした環境教育の推進を図ることができるプログラムの開発に努めていきたい。